

世界防災フォーラム

本校の取組発表

参加各国から注目



発表を終え会場の参加者に挨拶する小野寺さん(左)、木村さん(中央)、佐々木校長(右)

平成27年3月に仙台で行われた第3回国連防災世界会議の成功を受け、今後、スイスダボス会議と連携し仙台での隔年開催が決まった「世界防災フォーラム」が11月、開かれた。

25日、東北大学萩ホールで、本校災害科学科2年生が「青少年からのメッセージ」と題し、東日本大震災から6年を振り返り、岩手県立大槌高等学校や福島県立福島高等学校の生徒ら、被災地の若い世代と防災の取組を発表した。阪神・淡路大震災や、南海トラフ巨大地震に備える高知県の知見もまじえ、防災を意識したこれからの社会を考えた会議となり、活発な意見交換が行われた。

翌26日は、教育の役割を

「ほうさいこくたいで発表する小野寺さん(左)と講師君(右)」

考えるセッションが開かれ、本校が行っている「津波伝承まち歩き」活動の案内等で活躍する生徒会役員で普通科3年の木村千恵さんと小野寺杏さんが、本校のこれまでの取組を発表。

その後のディスカッションで、モデレーター役の国連大学フィリップ・ヴァウター氏が「大人たちへの防



災害科学科が開設され2年目の今年も、多くの活動に全校で取り組んだ。平成27年3月に仙台で開催された国連防災世界会議を機に、今年度から行われた「世界防災フォーラム」への参加をはじめ、世界各国の方々の訪問や、生徒の海外研修など、国際交流も盛んに行われた。

普通科生徒も履修する防災学習の中心的科目「くらしと安全A」なども、順調に授業が展開され、いよいよ次年度は災害科学科の完成を迎える。

多高通信

2018年(平成30年)3月31日 土曜日
宮城県多賀城高等学校
多賀城市笠神2-17-1
発行 防災教育担当

平成29年度 防災教育特集号

防災・減災を通じた 国際交流活動

災害教育はどうすればいい？
「と質問。木村さんは「若い世代が災害に向き合っている」と知ってもらおうと、大人が関心を持つきっかけになる」と答えると、会場から拍手が沸き、参加各国からの注目を集めた。

また、仙台国際センターでは、『ほうさいこくたい(防災推進国民大会2017)大規模災害に備える』みんなの連携が力になる防災』が同期中に開催された。「せんだい防災パビリオン」のミニプレゼンテーションでは、災害科学科1年の嶺岸叶人君と小角神月さんが本校の取組を紹介。来場者は足を止め発表を聞いていた。会場には本校のブースも設けられ、小此木八郎防災担当大臣、吉野正芳復興大臣も立ち寄り、生徒から説明を受けた。

夏季休業中の15日間、本校生徒11名を含む宮城県内の高校生50名が、ベラルーシ共和国からの招待を受けて訪問した。

ベラルーシはチェルノブイリ原発事故で被災した人々を受け入れた国で、原子力災害への意識が高い。

この招待事業への、本校生徒の参加は初めてで、訪問期間中は同国が運営する保養施設「ズブリーノク」で過ごした。教育・文化プログラムその他、健康プログラムにも参加し、チェルノブイリ事故で被災したベラルーシの現状を学んだ。生徒を本校で受け入れる。



ベラルーシ 友好訪問

生徒達は英語や覚えたてのロシア語を通して現地高校生との交流を深めた。

TOMODACHI プログラムの学び

シカゴ美術館前で

9月、本校生徒6名がTOMODACHI交流プログラムに参加した。シカゴ日米協会が「グローバル・シカゴ、グローバル・ミー」というテーマで企画、一般家庭にホームステイをしながら約1週間シカゴに滞在した。多賀城市の高校生がアメリカに行くことで、グローバルな視野を広げ、日米の絆をより強固にする目的で実施された。

平成30年は、シカゴの高校生を本校で受け入れる。



宮城県高校生徒理科研究発表会
災害科学科1年 生物部

生物部会長賞受賞!

第70回宮城県高等学校徒理科研究発表会が11月2日、仙台市宮城野区文化センターで開かれた。100題にも及ぶ出展の中から本校災害科学科1年の生物部が生物部会長賞を受賞した。

7月の浦戸巡検において、浦戸諸島

の野々島をフィールドにアマツとクロマツの混合体(ハイブリッドマツ)の個体数・分布について研究を行い、その結果をまとめた。マツの種類だけでなく、タブレットを用いたGPS情報による地理的分布の記録やつば研修を通して学んだJAXAの衛星画像解析を用いることで、様々な視点から総合的に東日本大震災やその後の再開発の影響に関連して考察を行った。審査員から「データの正確性や発表内容について高い評価を得た。」

また、同研究は、12月に行われた第6回みやぎサイエンスフェスタにおいても優秀賞を受賞した。

トルコの国民教育省と現職の教員14名が、平成30年1月25日来校した。一緒に参加した「コミュニケーション英語」の授業では、生徒たちが、折り紙の作り方を動画で説明したり、けん玉を実演したりして、日本文化を紹介した。防災を学ぶ授業も視察し、国民教育省教員養成総局のアクテキ・セミヒ局長は、「トルコも地震の多い国だが、日本は災害に備えしっかり準備している。トルコの防災教育システムにも生かしたい。」と話した。

その他、海外からの交流、視察団は、7月にフィリピンから災害リスクエリアの地域活性化事業担当の行政官が16名。9月にはアフリカ各国の防災事業に携わる政府関係者11名が来校している。

ジャマイカ 教育視察団

7月13日、ジャマイカから防災、減災について日本の教育を視察するため、10名が来校した。佐々木克敬校長が本校の防災教育について説明。また、災害科学科2年の松嶋祐典君は、授業の内容などを英語で説明した。防災系科目「くらしと安全A」の授業では、生徒が妊婦ジャケットを着用して疑似体験する様子などを見学した。リード教育大臣は「コミュニケーションでも活かせる実践的な教育で素晴らしい。地震や洪水の多いジャマイカにも参考になる。」と話した。

大講義室棟 「iRis Hall」 竣工!

アイリスホール

平成29年夏より建設が進められていた大講義室棟が、この3月に竣工した。通称は生徒からの公募で、「iRis Hall」となった。アイリスは多賀城市の市花である「あやめ」の英語読みであるとともに、「希望」という花言葉を持つ。また、Rを大文字にしたのは、フランス語の「reve」(夢)という意味を含ませ、「夢を大きく」という期待も込められた。

ホールは階段教室になっており、冷暖房完備。収容人数は約三百人で、ダブルスクリーンが設置され、各種講演や特別授業、来校者の対応などに使用される。

災害科学科実習 栗駒・浦戸巡検

災害科学科の基礎的研究となる野外実習(巡検)が、1・2学年の各グループで行われた。1年生は7月、昨年同様栗駒山麓で、2学年は11月に実施された。東北大学自然史標本館の西弘嗣教授と高嶋礼詩准教授を招き、荒砥沢ダム北端崩落地や上ノ岱地熱発電所、川原毛地獄などを巡検し、地層分布や地滑りのメカニズム、周辺火山の性質など現地での詳しく講義を受けた。この2つの巡検は学年プログラムとして今後も継続される。

また、これらの調査結果は、テーマごと各グループに分かれて、課題研究としてまとめ、各種フォーラム等で発表される。

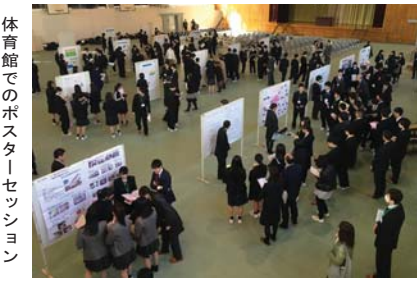


大規模な地滑りや崩落が発生した荒砥沢地区で林野庁職員から説明を受ける生徒

全国10都道県から参加 東日本大震災メモリアルday



本校中庭で参加者全員による記念写真



体育館でのポスターセッション

今回で2回目となる本校及び宮城県教育委員会主催(多賀城ロータリークラブ協力)行事、東日本大震災メモリアルday(兼みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会)は、昨年より規模を拡大し、北海道から九州までの全国10都道県から29校約200名が参加して3月3・4日に開催された。

ホテルキャッスルプラザ多賀城での開会行事では高橋仁宮城県教育委員会教育長の挨拶と、東北大学災害科学国際研究所今村文彦所長からの「東日本大震災の経験と次への備え・災害科学の役割」と題した基調講演が行われた。

その後「被災地から学ぶこと」をテーマにワークショップが持たれた。今年のプログラムは、開会行事の

前に、被災した仙台市立荒浜小学校跡等の震災遺構を巡るスタディツアーが組まれたことにより、より活発な意見交換がなされた。夜には、夕食と兼ねた交流会も行われ、全国から集まった生徒はそれぞれに親睦を深めた。

防災・減災・災害科学 特別授業

巨大津波と生態系

6月、災害科学科1年の「自然科学と災害」では、写真家の永幡嘉之氏が東日本大震災が生態系に及ぼした影響について講義した。



写真家の永幡嘉之氏

その後「被災地から学ぶこと」をテーマにワークショップが持たれた。今年のプログラムは、開会行事の

- 東日本大震災メモリアルday 2017 参加校
- 北海道: 室蘭北高等学校
 - 青森県: 八戸北高等学校
 - 岩手県: 釜石中央高等学校
 - 宮城県: 釜石中央高等学校
 - 秋田県: 秋田工業高等学校
 - 山形県: 山形工業高等学校
 - 福島県: 福島工業高等学校
 - 茨城県: 茨城工業高等学校
 - 栃木県: 栃木工業高等学校
 - 群馬県: 群馬工業高等学校
 - 埼玉県: 埼玉工業高等学校
 - 千葉県: 千葉工業高等学校
 - 東京都: 東京工業高等学校
 - 神奈川県: 横浜工業高等学校
 - 新潟県: 新潟工業高等学校
 - 富山県: 富山工業高等学校
 - 石川県: 石川工業高等学校
 - 福井県: 福井工業高等学校
 - 岐阜県: 岐阜工業高等学校
 - 静岡県: 静岡工業高等学校
 - 愛知県: 愛知工業高等学校
 - 三重県: 三重工業高等学校
 - 滋賀県: 滋賀工業高等学校
 - 京都府: 京都工業高等学校
 - 大阪府: 大阪工業高等学校
 - 兵庫県: 兵庫工業高等学校
 - 奈良県: 奈良工業高等学校
 - 和歌山県: 和歌山工業高等学校
 - 徳島県: 徳島工業高等学校
 - 香川県: 香川工業高等学校
 - 愛媛県: 愛媛工業高等学校
 - 高知県: 高知工業高等学校
 - 福岡県: 福岡工業高等学校
 - 佐賀県: 佐賀工業高等学校
 - 長門県: 長門工業高等学校
 - 熊本県: 熊本工業高等学校
 - 大分県: 大分工業高等学校
 - 鹿児島県: 鹿児島工業高等学校
 - 沖縄県: 沖縄工業高等学校



「まち歩き」で末の松山へ

被災地支援 復興 地域貢献 ボランティア活動

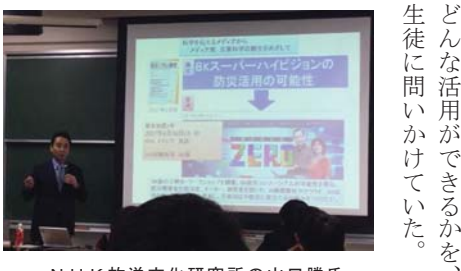
九州北部豪雨

7月に発生した九州北部豪雨への募金活動が生徒会役員と災害科学科生徒を中心に下馬駅前と多賀城駅前で行われ、4日間で約14万円の御厚意があった。



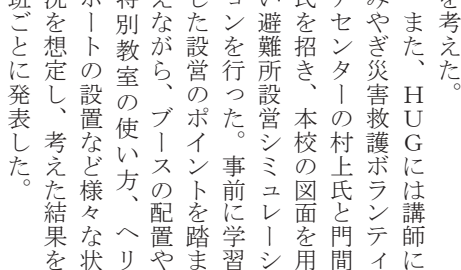
被災地区での災害ボランティア

2月、「情報と災害」の授業では、NHK放送文化研究所メディア研究部の山口勝主任研究員により、8K映像の防災への活用について、実際の映像をもとに講義が行われた。



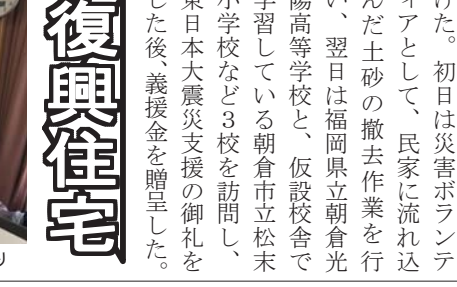
NHK放送文化研究所の山口勝氏

6月、「くらしと安全A」において「DIG(災害図上訓練)」と「HUG(避難所運営ゲーム)」が行われた。DIGには講師に東京の八千代エンジニヤリング(株)の寺脇氏と加藤氏を



寺脇氏(左)からアドバイスを受ける生徒

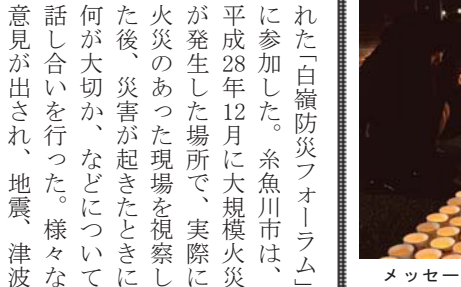
初日は災害ボランティアとして、民家に流れ込んだ土砂の撤去作業を行いました。翌日は福岡県立朝倉光陽高等学校と、仮設校舎で学習している朝倉市立松末小学校など3校を訪問し、東日本大震災支援の御礼をした後、義援金を贈呈した。



子ども交流会でのホットケーキ作り

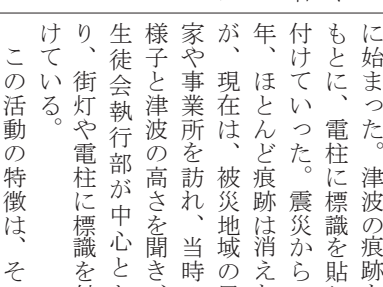
各種発表・フォーラム

10月7・8日、新潟県立糸魚川白嶺高等学校で行われた「糸魚川白嶺防災フォーラム」



火災現場を視察する生徒

多賀城市鶴ヶ谷に完成した災害公営住宅(復興住宅)で、1年の菊池海風さん、佐藤鈴さんら12名が、「復興住宅で高校生にできること」というテーマでボランティアに取り



メッセージカップへの点灯

震災から7年目を迎えた3月11日、市内NPO団体が企画する追悼行事「多賀城・万灯会(まんどうえい)」が行われ、多賀城駅前広場の震災モニュメント前には、約200人が集まり、犠牲者を追悼した。ボランティアとして災害科学科や生徒会役員を中心に約30名が参加し、受付やおしるこの配布、メッセージカップ点灯などを行った。

津波波高標識のメンテナンス作業



津波標識のメンテナンス作業

「みんなを守りたい」という自分ができることをテーマに世界26カ国の高校生から各国々での津波の脅威や防災への取組が紹介された。英語での討論を通し、世界の高校生の運動が多くを再確認した。

11月7・8日に「世界津波の日・2017高校生島サミット」が沖縄県宜野湾市の沖繩コンベンションセンターで行われ、2年の千葉陽太君と1年の後藤賢太郎君が参加した。

津波波高標識のメンテナンス作業

津波波高標識のメンテナンス作業

津波波高標識のメンテナンス作業



津波サミット開会式の様子

イスクール世界サミット(福島県広野町)、STAND UP SUMMIT 2017(東京)、海洋教育サミット(岩手県洋野町)、北海道サイエンスフェスティバル(札幌等)、20を超え



「昨年度作られた津波伝承まち歩きマップ」

現在、まち歩き活動は、生徒会執行部と災害科学科の生徒が中心となり学校に

の後、生徒会執行部がその標識を辿り歩く「まち歩き活動」として進化させた。